2027年３月期　第２四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年11月10日

上場会社名　　株式会社 朝日ラバー　　上場取引所　東
コード番号　　5162　　ＵＲＬ　https://www.asahi-rubber.co.jp
代表者　　（役職名）代表取締役社長　　（氏名）渡邉　陽一郎
問合せ先責任者　（役職名）執行役員管理本部長　　（氏名）久保田　敬之　　ＴＥＬ　048-650-6051
半期報告書提出予定日　　2026年11月10日　　配当支払開始予定日　2026年12月７日
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無　　：有（機関投資家、証券アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

１．2027年３月期第２四半期（中間期）の連結業績（2026年４月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年３月期中間期	4,193	7.9	67	△44.9	29	△75.3	91	3.0
2026年３月期中間期	3,885	5.2	122	－	119	－	89	－

（注）包括利益　2027年３月期中間期　148百万円（－%）　2026年３月期中間期　△0百万円（－%）

	１株当たり中間純利益	潜在株式調整後１株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2027年３月期中間期	20.41	－
2026年３月期中間期	19.53	－

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年３月期中間期	10,284	5,139	50.0
2026年３月期	9,731	5,024	51.6

（参考）自己資本　2027年３月期中間期　5,139百万円　2026年３月期　5,024百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年３月期	－	10.00	－	10.00	20.00
2027年３月期	－	12.00			
2027年３月期（予想）			－	12.00	24.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

３．2027年３月期の連結業績予想（2026年４月１日～2027年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,172	4.1	148	△25.2	122	△35.6	167	5.1	37.21

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

（１）当中間期における連結範囲の重要な変更：無
新規 ー社 （社名）、除外 ー社 （社名）

（２）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 ：無
② ①以外の会計方針の変更 ：無
③ 会計上の見積りの変更 ：無
④ 修正再表示 ：無

（４）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年３月期中間期	4,618,520株	2026年３月期	4,618,520株
② 期末自己株式数	2027年３月期中間期	106,421株	2026年３月期	130,845株
③ 期中平均株式数（中間期）	2027年３月期中間期	4,496,829株	2026年３月期中間期	4,562,875株

※ 第２四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は様々な要因により、上記予想値と異なる場合があります。

なお、上記予想値に関する事項は添付資料３ページをご覧ください。

○添付資料の目次

１．当中間決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 2
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．サマリー情報（注記事項）に関する事項 …… 3
（１）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 3
３．中間連結財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）中間連結貸借対照表 …… 4
（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 …… 6
中間連結損益計算書 …… 6
中間連結包括利益計算書 …… 7
（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書 …… 8
（４）中間連結財務諸表に関する注記事項 …… 9
（継続企業の前提に関する注記） …… 9
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 9
（セグメント情報等の注記） …… 9

１．当中間決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当社グループは「私たちは人を豊かにしてグローバル社会貢献度が高い技術会社になる」ことを目指し、2030年を見据えた「AR-2030VISION」を掲げています。当連結会計年度は、「AR-2030VISION」の実現に向けて、2026年4月から2031年3月までとする五ヵ年の第15次中期経営計画”Beyond 2030”の初年度となります。

当中間連結会計期間における事業環境は、インフレや円安に加え、中東情勢の急激な悪化に伴う供給不安が重なり、物価上昇や度重なる価格改定が続きました。これら複合的な要因により、経済の先行き不透明感は深刻化しました。このような状況のもと当社グループは、当事業年度の経営戦略に基づき重点事業を通じた貢献機会の拡大に向け新製品の開発へ積極的に投資を行い、市場のニーズに合致した製品を迅速に投入することで持続的な成長を実現するための施策を進めてまいりました。

この結果、当中間連結会計期間の業績は、工業用ゴム事業、医療・衛生用ゴム事業とも販売が増加し連結売上高は41億９千３百万円（前年同期比7.9%増）となりました。利益面においては、仕入れ価格の上昇や新規受注製品の量産立上げ準備費用や生産体制増強のための設備と要員等に係る投資費用の増加により、連結営業利益６千７百万円（前年同期比44.9%減）、連結経常利益は２千９百万円（前年同期比75.3%減）となりました。親会社株主に帰属する中間純利益は、投資有価証券売却益の計上があったことから９千１百万円（前年同期比3.0%増）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりです。

工業用ゴム事業

工業用ゴム事業では、自動車内装照明用のASA COLOR LEDの受注は引き続き低調に推移いたしました。自動認識機器に使用されるRFIDタグ用ゴム製品は、需要の減少と前期と同様に上期に生産を集中させて生産性を維持する調整を行っており、前年同期比では売上高が減少しました。一方、シリコーンレンズ製品の新規量産が開始されたことにより、ASA COLOR LENSの売上高は増加しました。卓球ラケット用ラバーについても好調な受注が続いており売上高は増加しました。また、スイッチ用などの操作系精密ゴム製品の受注も堅調に推移いたしました。

この結果、工業用ゴム事業の連結売上高は30億８千８百万円（前年同期比5.1%増）となりました。またセグメント利益は９千３百万円（前年同期比33.6%減）となりました。

医療・衛生用ゴム事業

医療・衛生用ゴム事業では、引き続き診断・治療向けの採血用・薬液混注用ゴム栓や医療用逆止弁の受注が増加しました。また、手技シミュレータ製品の受注についても堅調に推移いたしました。

この結果、医療・衛生用ゴム事業の連結売上高は11億４百万円（前年同期比16.5%増）となりました。セグメント利益は９千３百万円（前年同期比7.2%減）となりました。

（２）財政状態に関する説明

①資産、負債および純資産の状況

当中間連結会計期間末の総資産は前連結会計年度末に比べて５億５千２百万円増加し、102億８千４百万円となりました。その主な要因は、現金及び預金、受取手形及び売掛金、建物及び構築物、機械装置及び運搬具が増加したことによるものであります。

負債は前連結会計年度末に比べて４億３千７百万円増加し、51億４千５百万円となりました。その主な要因は、短期借入金、１年内返済予定の長期借入金及び長期借入金が増加したことによるものであります。

純資産は前連結会計年度末に比べて１億１千４百万円増加し、51億３千９百万円となりました。その主な要因は、利益剰余金及び為替換算調整勘定が増加したことによるものであります。

また、当社グループでは各事業の受注状況に基づき、生産能力を検討し設備投資を実施、また新たな事業分野への研究開発投資を積極的に実施しております。その必要資金については財政状態の良化を鑑みながら、主に売上代金及び金融機関からの借入金による調達を基本としております。

なお、当中間連結会計期間末における借入金及びリース債務を含む有利子負債の残高は27億６千７百万円となっております。

②キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物の期末残高は、前中間連結会計期間末に比べて１億８千５百万円増加の16億９千６百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは３千１百万円の収入（前年同期は４億４千３百万円の収入）となりました。

これは主に、投資有価証券売却益１億１千６百万円、売上債権の増加額１億５千９百万円（前年同期は１百万円の増加）、があったものの、税金等調整前中間純利益１億４千４百万円（前年同期は１億２千４百万円）、減価償却費２億６千３百万円（前年同期は２億３千３百万円）によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは、３億７千２百万円の支出（前年同期は３億４千１百万円の支出）となりました。

これは主に、定期預金の払戻による収入２億２千万円（前年同期は２億６千６百万円の収入）、投資有価証券の売却による収入１億２千８百万円があったものの、定期預金の預入による支出１億７千４百万円（前年同期は２億４千１百万円の支出）、有形固定資産の取得による支出５億７千万円（前年同期は３億８千３百万円の支出）等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは４億１千万円の収入（前年同期は２億５千１百万円の収入）となりました。

これは主に、長期借入金の返済による支出３億１千７百万円（前年同期は２億９千８百万円の支出）があったものの、短期借入金の純増加額２億円、長期借入れによる収入５億８千万円（前年同期は６億円の収入）等によるものであります。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2026年８月６日に公表しました「業績予想の修正に関するお知らせ」の通期の連結業績予想から変更はありません。

２．サマリー情報（注記事項）に関する事項

（１）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税金等調整前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税金等調整前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

３．中間連結財務諸表及び主な注記

（１）中間連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 （2026年３月31日）	当中間連結会計期間 （2026年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,303,478	2,377,673
受取手形及び売掛金	1,476,925	1,649,029
電子記録債権	144,694	149,495
商品及び製品	620,544	609,273
仕掛品	401,284	421,099
原材料及び貯蔵品	251,240	275,330
その他	107,525	143,174
貸倒引当金	△1,200	△1,400
流動資産合計	5,304,493	5,623,678
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,108,314	1,165,706
機械装置及び運搬具（純額）	1,518,808	1,751,446
土地	827,533	827,533
その他（純額）	256,937	238,044
有形固定資産合計	3,711,594	3,982,730
無形固定資産	29,747	23,764
投資その他の資産		
その他	685,256	653,537
貸倒引当金	△440	△440
投資その他の資産合計	684,816	653,097
固定資産合計	4,426,158	4,659,593
繰延資産	1,127	958
資産合計	9,731,779	10,284,229
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	292,141	314,749
電子記録債務	328,969	359,630
短期借入金	600,000	800,000
１年内返済予定の長期借入金	549,931	611,812
未払法人税等	37,498	75,184
その他	809,260	662,750
流動負債合計	2,617,801	2,824,126
固定負債		
長期借入金	1,107,572	1,308,233
株式給付引当金	－	10,725
役員株式給付引当金	17,385	4,079
退職給付に係る負債	917,268	954,607
その他	47,343	43,388
固定負債合計	2,089,569	2,321,034
負債合計	4,707,371	5,145,161

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2026年３月31日)	当中間連結会計期間 (2026年９月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	516,870	516,870
資本剰余金	465,827	465,827
利益剰余金	3,484,557	3,530,191
自己株式	△89,012	△76,451
株主資本合計	4,378,242	4,436,437
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	145,007	129,647
為替換算調整勘定	326,855	408,407
退職給付に係る調整累計額	174,302	164,575
その他の包括利益累計額合計	646,165	702,630
純資産合計	5,024,408	5,139,068
負債純資産合計	9,731,779	10,284,229

（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

（中間連結損益計算書）

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
売上高	3,885,202	4,193,034
売上原価	2,943,764	3,287,436
売上総利益	941,438	905,598
販売費及び一般管理費	819,206	838,207
営業利益	122,231	67,390
営業外収益		
受取利息	2,699	3,611
受取配当金	2,873	4,170
雑収入	8,384	7,960
営業外収益合計	13,957	15,742
営業外費用		
支払利息	7,808	16,469
為替差損	147	16,185
支払補償費	－	15,944
雑支出	9,163	5,109
営業外費用合計	17,119	53,709
経常利益	119,068	29,423
特別利益		
固定資産売却益	－	6,850
投資有価証券売却益	－	116,307
補助金収入	－	2,600
偶発損失引当金戻入額	10,947	－
特別利益合計	10,947	125,758
特別損失		
固定資産除却損	5,756	9,967
固定資産圧縮損	－	1,088
特別損失合計	5,756	11,055
税金等調整前中間純利益	124,259	144,126
法人税等	35,164	52,345
中間純利益	89,095	91,780
親会社株主に帰属する中間純利益	89,095	91,780

（中間連結包括利益計算書）

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
中間純利益	89,095	91,780
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	10,137	△15,360
為替換算調整勘定	△93,995	81,551
退職給付に係る調整額	△6,115	△9,726
その他の包括利益合計	△89,974	56,464
中間包括利益	△878	148,245
（内訳）		
親会社株主に係る中間包括利益	△878	148,245

（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	124,259	144,126
減価償却費	233,673	263,672
貸倒引当金の増減額（△は減少）	－	200
偶発損失引当金の増減額（△は減少）	△34,513	－
株式給付引当金の増減額（△は減少）	－	10,725
退職給付に係る負債の増減額（△は減少）	33,073	15,833
役員株式給付引当金の増減額（△は減少）	3,528	△744
受取利息及び受取配当金	△5,572	△7,781
支払利息	7,808	16,469
有形固定資産売却損益（△は益）	－	△6,850
有形固定資産除却損	5,756	9,967
固定資産圧縮損	－	1,088
投資有価証券売却損益（△は益）	－	△116,307
補助金収入	△112	△2,600
売上債権の増減額（△は増加）	△1,778	△159,143
棚卸資産の増減額（△は増加）	△218,551	△16,608
仕入債務の増減額（△は減少）	156,936	49,191
未払費用の増減額（△は減少）	53,668	△17,452
未払消費税等の増減額（△は減少）	28,352	△43,030
その他	70,545	△75,973
小計	457,075	64,783
利息及び配当金の受取額	3,977	6,589
補助金の受取額	112	2,600
利息の支払額	△7,808	△18,538
法人税等の還付額	8,234	－
法人税等の支払額	△18,069	△24,266
営業活動によるキャッシュ・フロー	443,523	31,167
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△241,750	△174,390
定期預金の払戻による収入	266,400	220,650
有形固定資産の取得による支出	△383,886	△570,833
有形固定資産の売却による収入	－	7,061
無形固定資産の取得による支出	△1,105	△1,238
投資有価証券の売却による収入	－	128,153
投資有価証券の取得による支出	△641	△678
その他	19,304	19,152
投資活動によるキャッシュ・フロー	△341,677	△372,121
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	－	200,000
長期借入れによる収入	600,000	580,000
長期借入金の返済による支出	△298,019	△317,458
配当金の支払額	△46,213	△46,094
その他	△4,173	△6,334
財務活動によるキャッシュ・フロー	251,594	410,112
現金及び現金同等物に係る換算差額	△47,460	36,186
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	305,979	105,344
現金及び現金同等物の期首残高	1,205,319	1,591,408
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,511,298	1,696,753

（４）中間連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）
該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）
該当事項はありません。

（セグメント情報等の注記）
【セグメント情報】
Ⅰ　前中間連結会計期間（自2025年４月１日 至2025年９月30日）
１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：千円）

	工業用ゴム事業	医療・衛生用ゴム事業	合計
売上高			
日本	2,318,232	689,431	3,007,664
中国	359,917	223,359	583,276
アジア	176,211	34,974	211,185
北米	71,188	－	71,188
ヨーロッパ	11,887	－	11,887
その他	－	－	－
顧客との契約から生じる収益	2,937,437	947,765	3,885,202
その他の収益	－	－	－
外部顧客への売上高	2,937,437	947,765	3,885,202
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－
計	2,937,437	947,765	3,885,202
セグメント利益	140,267	100,430	240,698

２．報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と中間連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

利益	金額（千円）
報告セグメント計	240,698
全社費用（注）	△118,466
中間連結損益計算書の営業利益	122,231

（注）全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない基礎的研究費及び提出会社の管理部門に係る費用であります。

３．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

Ⅱ　当中間連結会計期間（自2026年４月１日 至2026年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：千円）

	工業用ゴム事業	医療・衛生用ゴム事業	合計
売上高			
日本	2,423,964	802,161	3,226,126
中国	404,421	267,777	672,198
アジア	174,035	34,299	208,334
北米	63,981	348	64,330
ヨーロッパ	22,045	－	22,045
その他	－	－	－
顧客との契約から生じる収益	3,088,447	1,104,586	4,193,034
その他の収益	－	－	－
外部顧客への売上高	3,088,447	1,104,586	4,193,034
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－
計	3,088,447	1,104,586	4,193,034
セグメント利益	93,128	93,205	186,333

２．報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と中間連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

利益	金額（千円）
報告セグメント計	186,333
全社費用（注）	△118,942
中間連結損益計算書の営業利益	67,390

（注）全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない基礎的研究費及び提出会社の管理部門に係る費用であります。

３．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。